

## 【背景と目指す姿】

- 現在、水田及び畑において約10haのねぎを周年栽培しているが、**更なる規模拡大とともに、連作障害を回避するため、水田における作付拡大を進める必要がある。**
- そのため、**出荷調整作業を簡略化できる加工・業務用向け**を念頭に、**機械化一貫体系の高度化**とともに、農地中間管理事業等を活用し、水田の利用集積を進める。また、**ねぎ出荷量が減少する厳寒期の雇用の有効活用のため、にんじんの作付けを拡大**し、経営基盤の安定化を図る。
- 一方で、**新規就農希望者等を研修生として受入、独立支援による仲間づくり**を進め、出荷ロットを拡大、出荷量の安定化を図り取引先の信頼向上を目指す。

## 1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):4.5ha ⇒ 目標(令和2(2020)年度):13ha

## 2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修生の受入れ、技術習得、独立等の支援による共同出荷者の確保と出荷ロットの拡大</li> <li>・除礫の実施によるほ場条件の改善</li> <li>・農地中間管理事業等を活用した水田の集積・集約化</li> </ul>
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高機能なねぎ専用管理機、防除機、収穫機の導入による作業の効率化</li> <li>・有能な人材の確保に向けた法人化と労働条件の改善</li> <li>・茂木町の大規模養鶏農場である“茂木のたまご”の鶏糞発酵堆肥の投入による化成肥料の使用量の削減、土壌の物理性の改善</li> </ul>
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所得の向上に向けて、より条件のよい取引先を確保するための商談会等への参加</li> </ul>



ねぎの土寄せ



実需者を交えた勉強会



加工・業務用にんじんの出荷